

令和3年度 田川市立病院評価委員会 議事録

日時 令和3年11月4日（木） 14時00分～15時50分

場所 田川市立病院 講堂

1 出席者

(1) 委員

学識経験者	柴田洋三郎	福岡県立大学 学長
〃	是永大輔	中津市病院・診療所事業 事業管理者
〃	尾形由起子	福岡県立大学看護学部 教授
〃	佐藤元治	公認会計士

(※欠席：荒木副委員長、身吉委員)

(2) 事務局

鴻江病院事業管理者、松隈病院長、小早川副院長、吉田事務局長、石川看護部長、西原薬剤科長、山口医療支援センター副センター長、本永総務・管財課長、有田医事課長補佐、茅野経営企画課長補佐、加藤経営企画課係長、経営企画課担当

2 議事

(1) 新型コロナウイルス感染症への対応について

(事務局より概要を説明)

令和2年度の経営に大きく影響のあった新型コロナウイルス感染症への対応について、入院患者の受入状況のほか、感染症病床の確保および医師等の人員体制の整備などを報告。

(質問・意見等)

- ・現在も入院患者はいるのか。また、退院した患者は、治癒し自宅へ戻ったと考えてよいか。
 - 第5波が収束し、県全体で10月の患者数は10人程度であるが、現在も数名を散発的に受け入れている。また、入院患者の99%は自宅へ退院となったが、看取りのケースや重症化が早い場合は飯塚病院へ搬送するケースもあった。
- ・コロナ対応として医師を増員しているが、コロナ後も同様の体制となるのか。
 - 呼吸器内科は常勤医として2名増員となったが、感染症科の医師はコロナ対応のための一時的な増員である。

(2) 令和2年度の決算報告及び業務実績に関する評価について

① 決算報告

(事務局より概要を説明)

令和2年度は入院・外来ともに患者数が減少し医業収益が減少した一方で、医師の増員やコロナ対応に対する手当の支給等により給与費や経費が増加したため、医業収支は△985百万円（前年度比△709百万円）となった。しかしながら、重点医療機関としてコロナ対応に注力したことでコロナに係る補助金が交付され、経常収支は606百万円、病院事業収支は552百万円の黒字決算となった。

(質問・意見等)

- ・外来単価が上昇した要因は何か。
 - 診療単価の高い外来化学療法において、コロナ禍でも患者数が安定したことが主に影響している。
- ・給与費対医業収益が高くなっているが、職員配置数や時間外勤務、医師の働き方改革等への対策はどうなっているのか。
 - 医師の増員や手当の増加等により給与費が増となったが、職員配置数自体は適正と考える。時間外勤務は業務改善などから減少しており、手当の増加はコロナ対応に対する従事者手当の支給が影響している。働き方改革については医師の時間外勤務の削減等に向けて、当直勤務体制の変更、勤怠管理システムの導入を現在検討している。
- ・研究研修費が減少しているが、収益減に伴って減らしたのか。
 - 予算自体は昨年度と同額であるが、感染対策により学会中止やオンライン開催への切替え等があり、参加費及び旅費が大幅に減となった。
- ・令和 2 年度決算の黒字については、コロナ対応で黒字になったという理解でよいのか。
 - そのとおりである。重点医療機関として注力したことで、医療従事者に対する手当、医療機器の整備、病床確保に対する補助金が交付され、経常収支および病院事業収支は黒字となった。

② 業務実績に関する評価

第 3 期中期事業計画に基づく令和 2 年度の業務実績について、市立病院の自己評価を踏まえて、評価委員会として評価を実施。

○小項目評価

(小項目 39 項目について、実績値を基に効果的な取組が行われているかなどの総合的な視点で評価)

- ・断らない医療の実現 【評価変更：2→3】
コロナの影響により救急車や紹介の実績値は低くなったが、コロナ対応に注力する中、応需率向上に向けて取り組んだことを評価。
- ・救急医療の充実 【評価変更：2→3】
コロナの影響により田川地域全体の救急患者数が減っている。救急外来での感染対策を図りながら、可能な限り受入れに取り組んだことを評価。
- ・循環器内科の再建 【評価変更：1→2】
大学訪問や人材派遣業者等からの情報収集など、医師確保に取り組んでいること、また、田川地域唯一の心臓カテーテル治療ができる病院として、在籍医師ができる限り対応していることを評価。
- ・糖尿病 【評価変更：2→3】
糖尿病常勤医が不在となり入院対応ができなくなったものの、糖尿病チームが腎臓内科医と協力して取り組み、糖尿病透析予防指導患者が増えたことを評価。
- ・小児医療 【評価変更：2→3】
小児科はコロナの影響を大幅に受けた診療領域であり、全国的に患者が大幅に減少している。コロナ対応を行いながら様々な小児診療に取り組んだことを評価。

・腎疾患・透析医療 【評価変更：3→4】

コロナの影響を受けず患者数が安定しており、糖尿病患者の指導や患者 QOL 向上に取り組む姿勢が十分に見られること、また、CKD・糖尿病予防連携システムの充実に向けて講演会等に積極的に取り組んだことを評価。

・医療従事者に対する研修会の充実 【評価変更：3→4】

コロナ対応として、オンライン研修に取り組んだこと、また、緩和ケア内科医の赴任により、緩和ケアに係る研修が充実したことなどを評価。

・職員の教育研修の推進 【評価変更：3→4】

看護師の特定行為研修のほか、各種資格の取得支援、オンライン環境の整備など、職員の教育研修に丁寧に取り組んでいることを評価。

○大項目評価

(小項目評価の結果から大項目評価の基となる点数を算出、判断基準に沿って評価)

大項目	評価		点数
1 田川市立病院の果たすべき役割	B	概ね計画どおりに進んでいる	3.1
2 三方よしの病院運営	B	概ね計画どおりに進んでいる	3.1
3 再編・ネットワーク化	C	やや遅れている	2.0

○全体評価

(大項目評価の結果および特に着目すべき成果の 7 項目を考慮し、全体評価を実施)

令和 2 年度の評価結果 (全体評価)	「概ね計画どおりに進んでいる」
------------------------	-----------------

(主な質問・意見等)

- ・田川地区は高齢化率が進んでいるため、訪問診療や看取りが増加している。今後更に在宅医療が重要になってくるため、市立病院が先進的に取組を進めていただきたい。
- ・コロナによる受診控え等があったものの、医療需要自体は以前と大幅に変わらないと思う。コロナが落ち着いている現在においては、他医療圏への流出が減るよう、広報に力を入れていただきたい。
- ・職員からの提案募集で 62 提案があったとのことだが、どのようなものがあったか。
 - 地域包括ケア病棟の有効活用、オンライン診療の導入、研修オンライン化のほか、福利厚生面ではトイレの改装、フリーWifi の整備などがあった。
- ・再編・ネットワークの評価が「C：やや遅れている」となっているが、二次医療を担っている社会保険田川病院と市立病院はどのような関係を考えているのか。
 - 市立病院として、理想は医療機関の統合であるが、医師の派遣元や経営母体の違いなどから難しい問題がある。地域医療連携推進法人を活用し、医療機能のすみ分けを進めていくことが現実的と考えている。
- ・患者からの意見等はどこで把握しているのか。
 - 投書箱を医事課で管理し、クレーム対応委員会等で対応している。

(3) 第3期中期事業計画の改定について

(事務局より概要を説明)

令和3年3月に新型コロナウイルス感染症への対応や復興に向けた対策等の方針を示すため、中期事業計画の改定を行ったことを報告。また、未定となっている令和4年度の収支計画について、今年度に再度改定し明記することを報告。

(質問・意見等)

特になし

(4) 令和3年度の経営状況について

(事務局より概要を説明)

令和2年度の実績と比べて、患者数・稼働額ともに回復傾向にあるものの、令和元年度の実績まで回復していない状況を報告。また、令和3年4～8月までの実績を基にした決算の試算において、経常収支は黒字見込みであるが、医業収支で△959百万円の赤字が見込まれることを報告。

(質問・意見等)

特になし

(5) その他

- ・病院経営において、資金残高は月収入の3倍が理想であることを聞いた。市立病院もあと少しの状況であるため頑張っていたきたい。